

# 第8期つくば市高齢者福祉計画策定のための アンケート調査結果について

令和2年度 第1回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会

# つくば市高齢者福祉計画策定のためのアンケートについて

◎つくば市高齢者福祉計画策定のため、市内に居住する高齢者及びケアマネジャーの現状を把握し、計画の基礎資料とするために実施（高齢福祉課）。

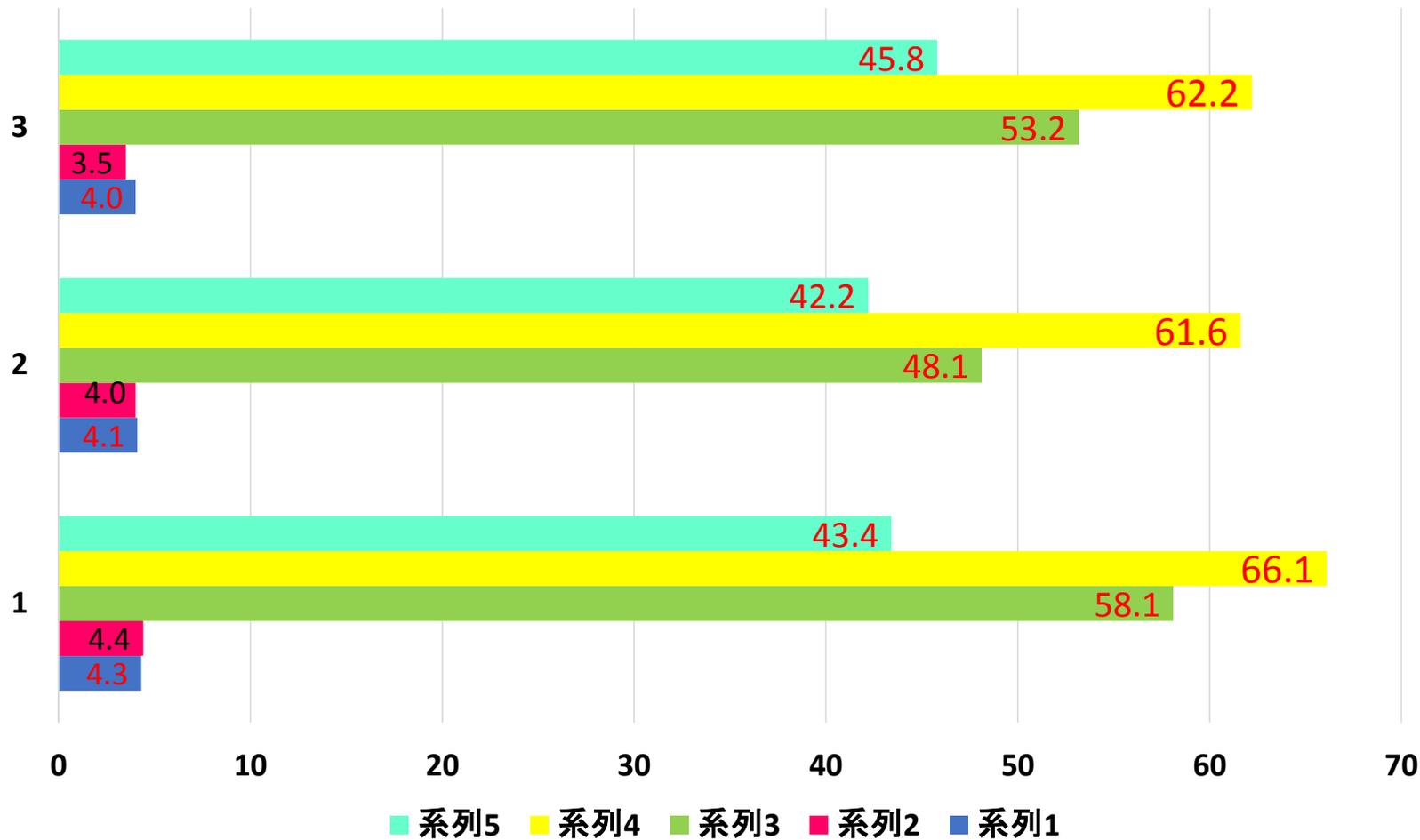
第8期つくば市高齢福祉計画策定のためのアンケート調査結果の概要 → 資料1-2参照

◎アンケート結果は、在宅医療・介護連携推進事業において、医療と介護の進捗を図る上で参考になる資料。現状の把握・成果・つくば市の強みと弱み等、課題の抽出や今後の施策を検討する際に活用する。

協議会でアンケート結果共有 → 医療と介護の連携の課題について整理  
医療と介護のありたい姿の目標に近付くために必要なことを確認

【参考】各調査期間 8期 令和2年1月15日～2月17日  
7期 平成28年12月22日～平成29年1月20日  
6期 平成26年2月7日～2月21日

# かかりつけの病院・医院・歯科医院はありますか(いくつでも) 一般高齢者



【かかりつけ医は医院の割合が高い】

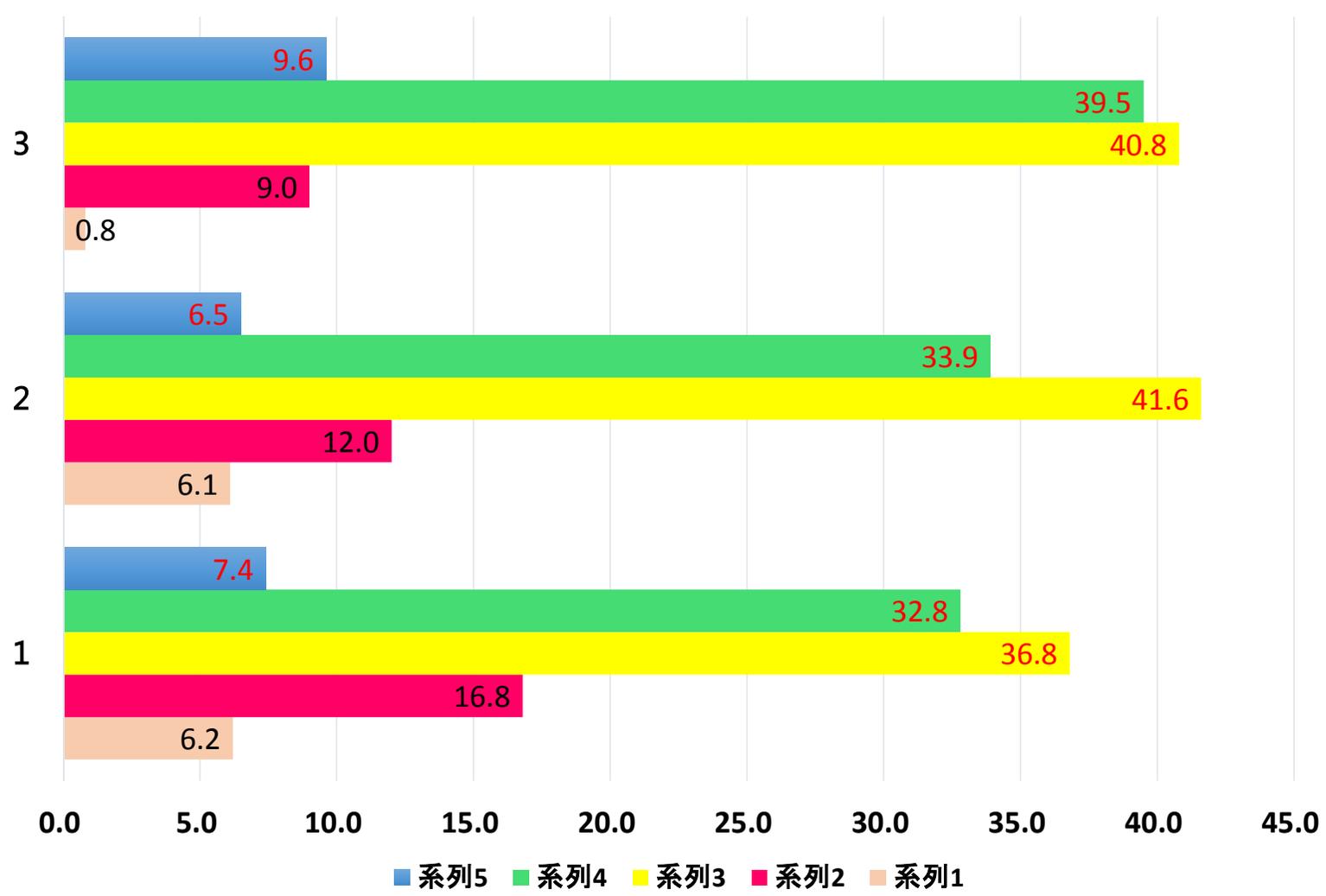
複数回答であるが、調査全てにおいて、医院(診療所、クリニック)をかかりつけとする高齢者が多い。また、病院をかかりつけ医とする高齢者は毎回40%台。

※8期 病院・医院(診療所、クリニック)に通院していますか。

はい 79.6%  
いいえ 16.7% (n=1,821)

# あなたは在宅医療についてご存知ですか。

## 一般高齢者、要支援・要介護高齢者等



【在宅医療の認知度は半分以下】

8期は28年度の調査時より「よく知っている」「ある程度知っている」が減少。

要支援・要介護認定者と一般高齢者の認知度は大きな差はない。

8期要支援要介護 よく知っている

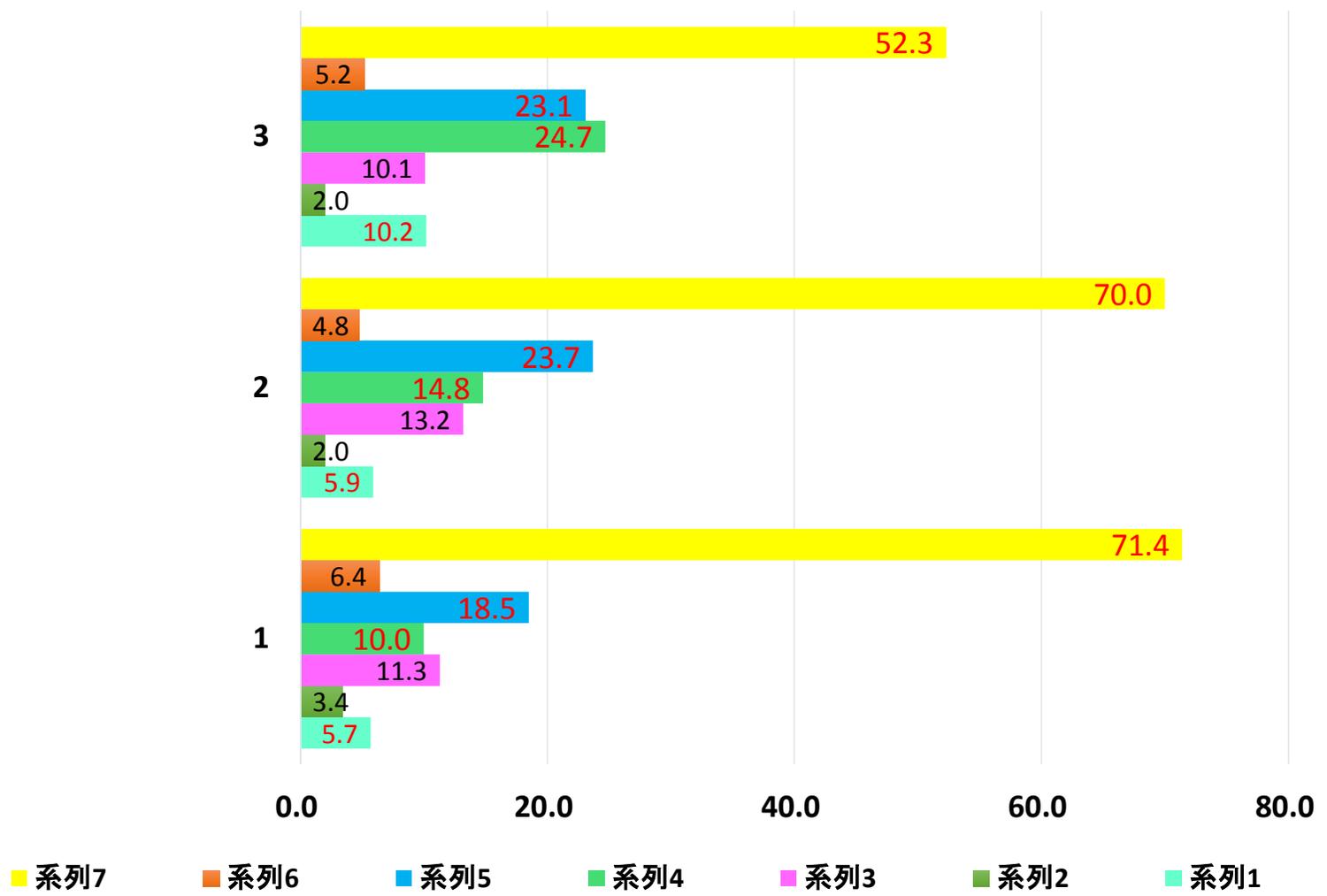
全体(要支援1～要介護5)	7.4%
要介護5	32.1%
要介護4	14.5%

※7期、6期は在宅医療の認知度は未調査。

※28年度在宅医療・介護連携推進事業意識調査では対象者が市民、20歳以上の無作為抽出であり高齢者福祉計画と対象者が異なる。

あなたは、自身が今後、要介護（要支援）状態となった場合、暮らしの場所がどこが良いですか（いくつでも）。

一般高齢者・要支援・要介護認定者



【在宅志向の強まり】

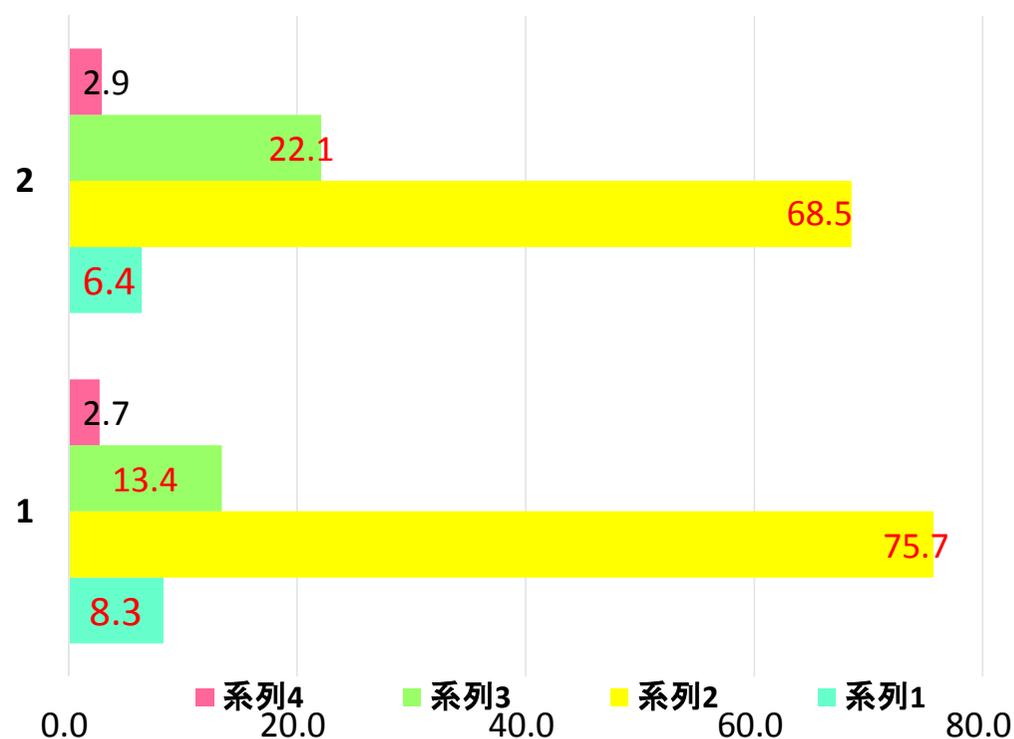
7期、8期共に自宅を希望する割合が高い。8期の要支援・要介護認定者が自宅を希望する割合がもっとも高くなっている。

8期 要介護状態の暮らしの場が自宅が良いと回答した割合

- 40歳代 (n=341) 60.7%
- 60歳代 (n=151) 66.2%
- 前期高齢者 (n=877) 70.0%
- 後期高齢者 (n=937) 70.1%
- 要支援1 (n=401) 71.6%
- 要支援2 (n=458) 74.7%
- 要介護2 (n=162) 79.0%
- 要介護3 (n=111) 57.7%
- 要介護4 (n=55) 63.6%
- 要介護5 (n=28) 71.4%

# ACP(アドバンスケアプランニング)について言葉を知っていますか。

8期 一般高齢者、要支援・要介護認定者

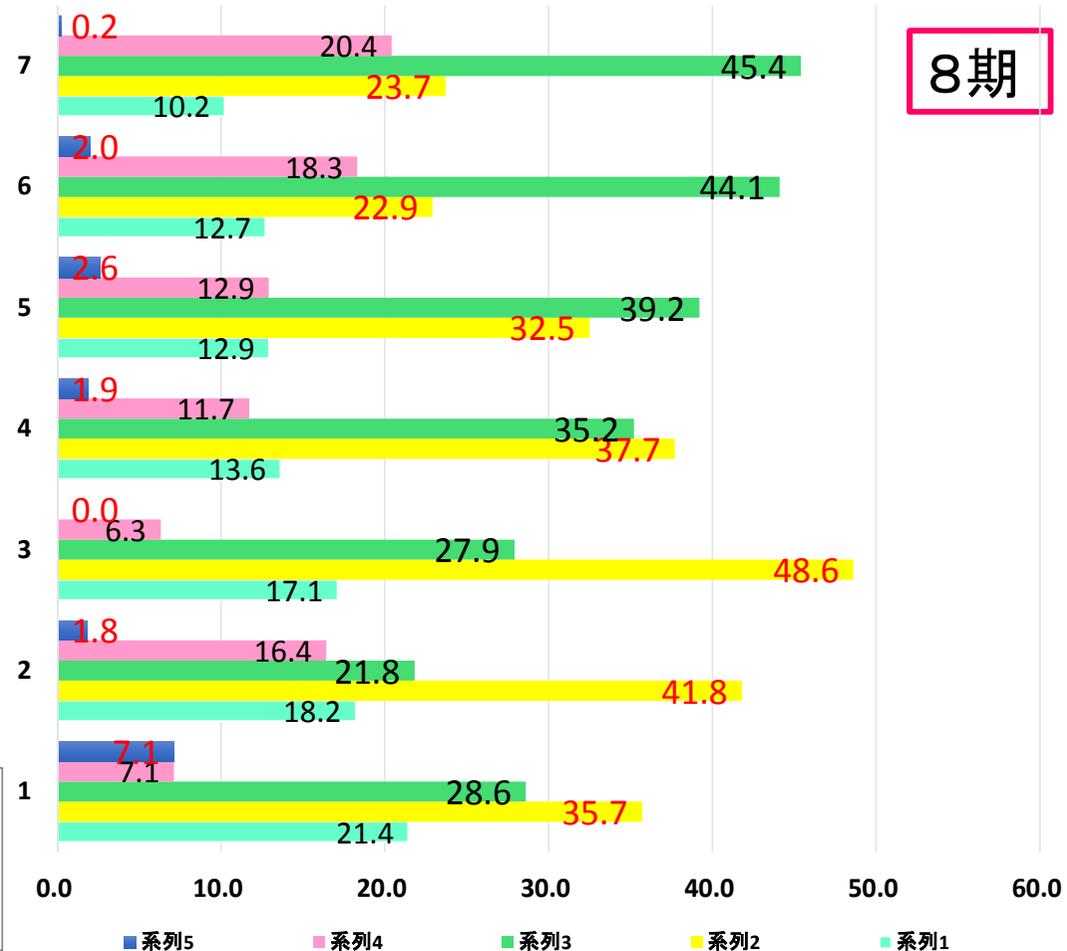
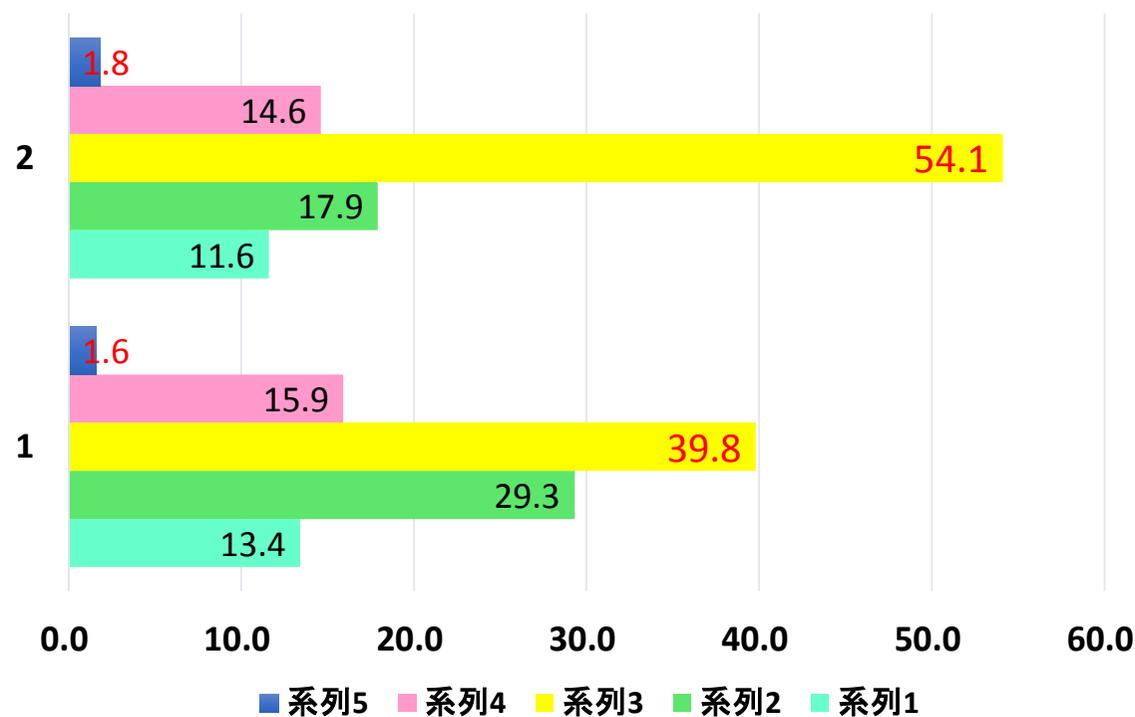


8期

一般高齢者と要支援・要介護認定者の7割は、言葉も内容も知らないと回答しており、ACPの認知度は低い状況にある。介護度別では、介護度が低い方が認知度が若干高い。

# 将来に備えて、ACP(アドバンスケアプランニング)や人生の終わり方について家族や知人、サービス関係者と話し合ったことはありますか。

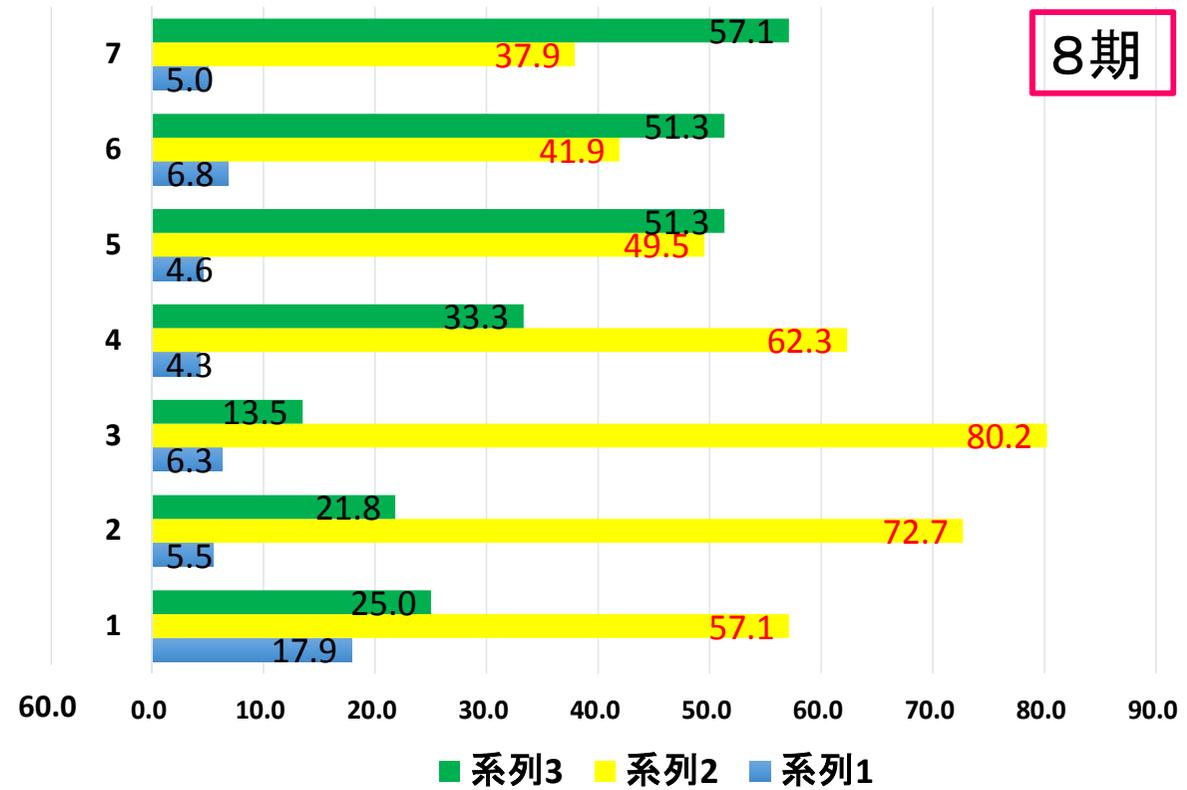
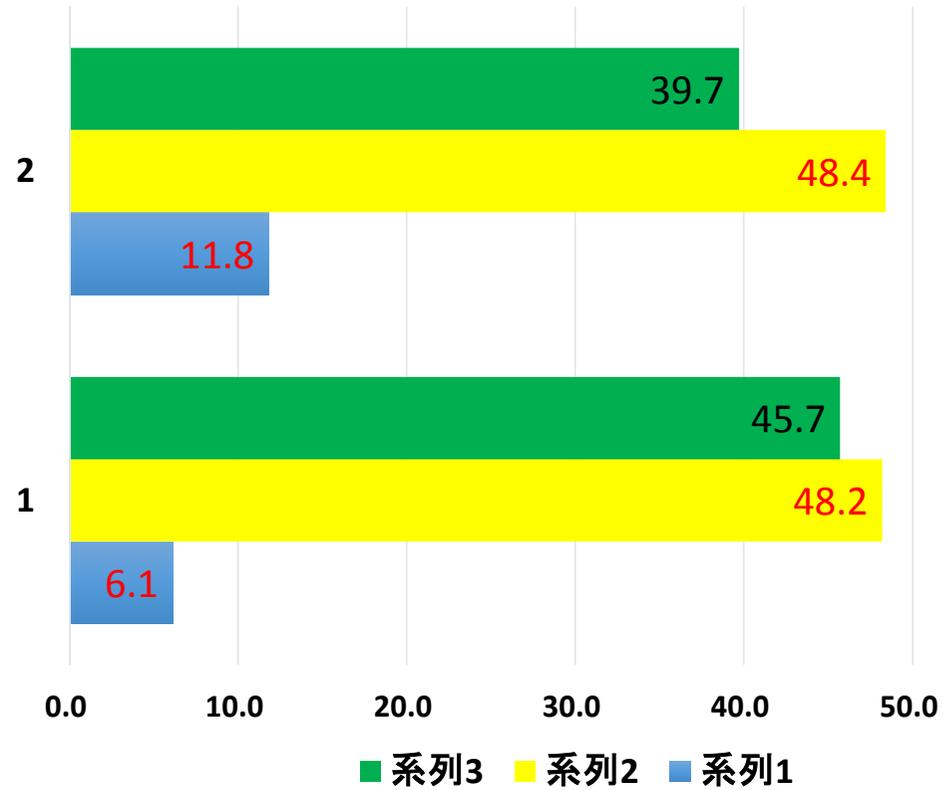
8期 一般高齢者、要支援・要介護認定者



一般高齢者、要支援・要介護認定者共に、話をしていないが今後話をすると回答している割合がもっとも高い。一般高齢者の方が、今後話をすると回答した割合が高い。  
介護度別にみると、いつも話していると回答した割合でもっとも高いのが介護5。

# 生きがいがありますか。

要支援・要介護認定者



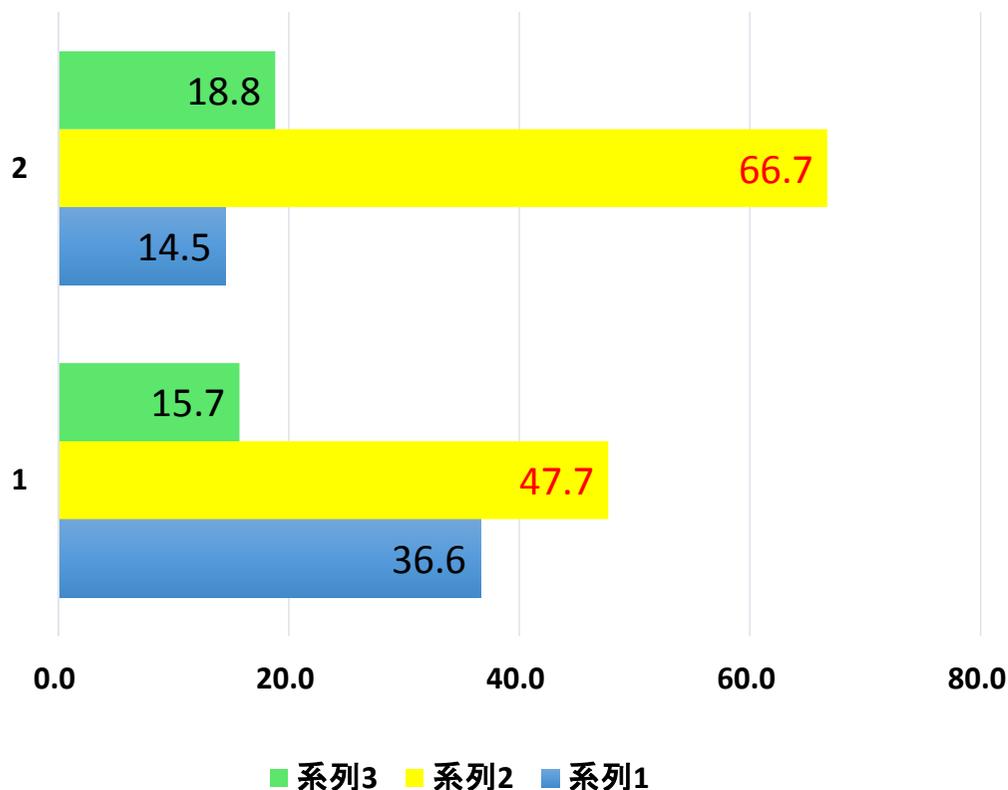
8期

8期は7期より生きがいありと回答した割合が高い。

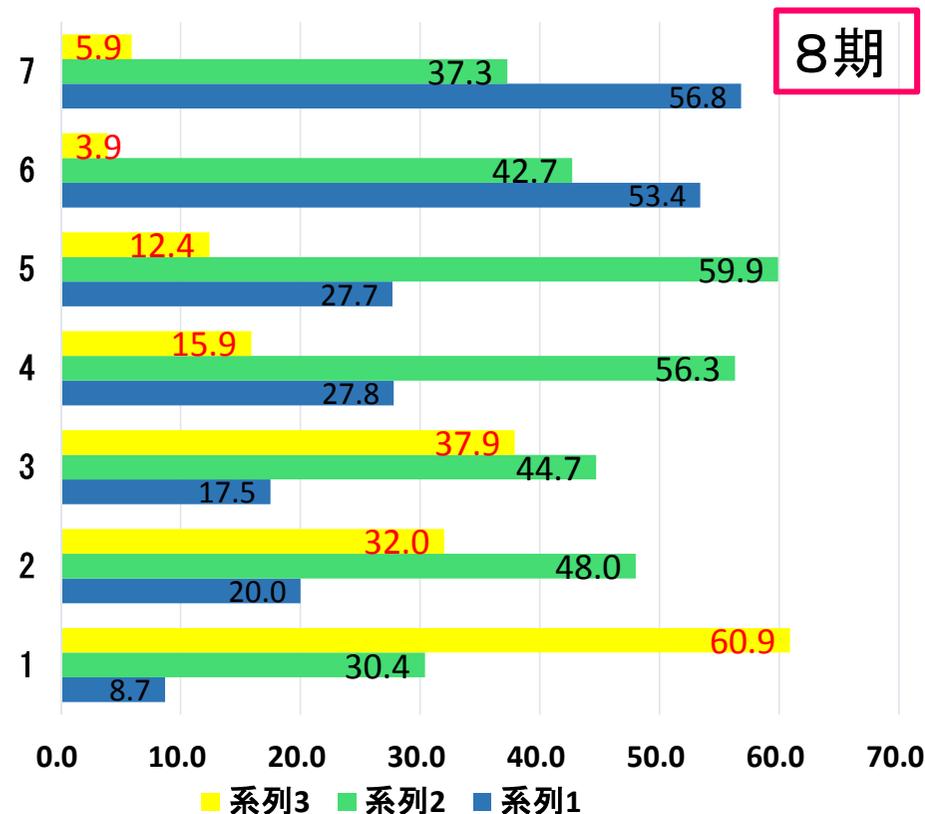
介護度別では、介護度が低いほうが生きがいがあると回答した割合が高い。

# 御家族の事情などにより予定外で緊急で短期入所（緊急ショートステイ）を利用したことがありますか。

要支援・要介護認定者



在宅療養において、いざという時に短期入所利用ができると家族の安心にも繋がる。8期は7期より利用したことがある、利用したことがない、どちらも回答が減少している。

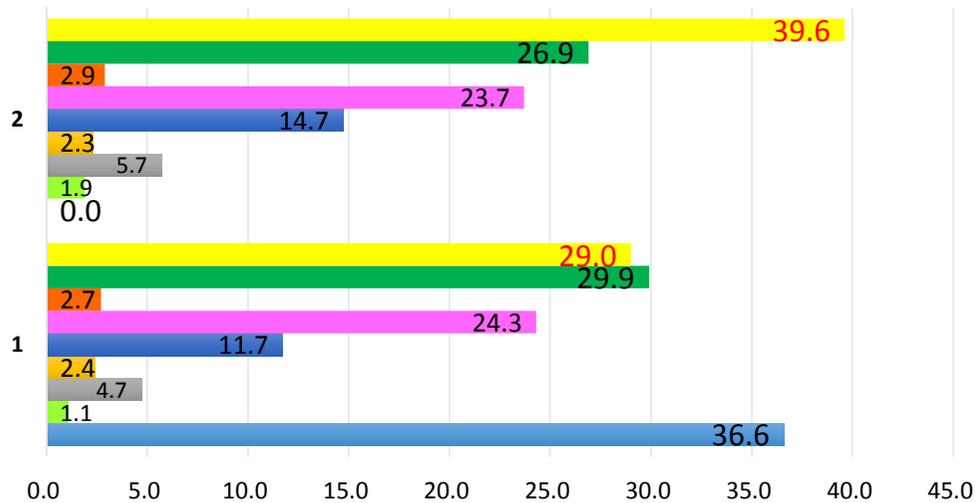


介護度が高くなればなるほど、利用したことがあると回答した割合が大きくなる。

あなたは、要介護者の方が今の要介護(要支援)状態が続いた場合、要介護者の方の暮らしの場所はどこが良いと思いますか。(いくつでも○、最も希望するものに1つ◎)

要支援・要介護認定者

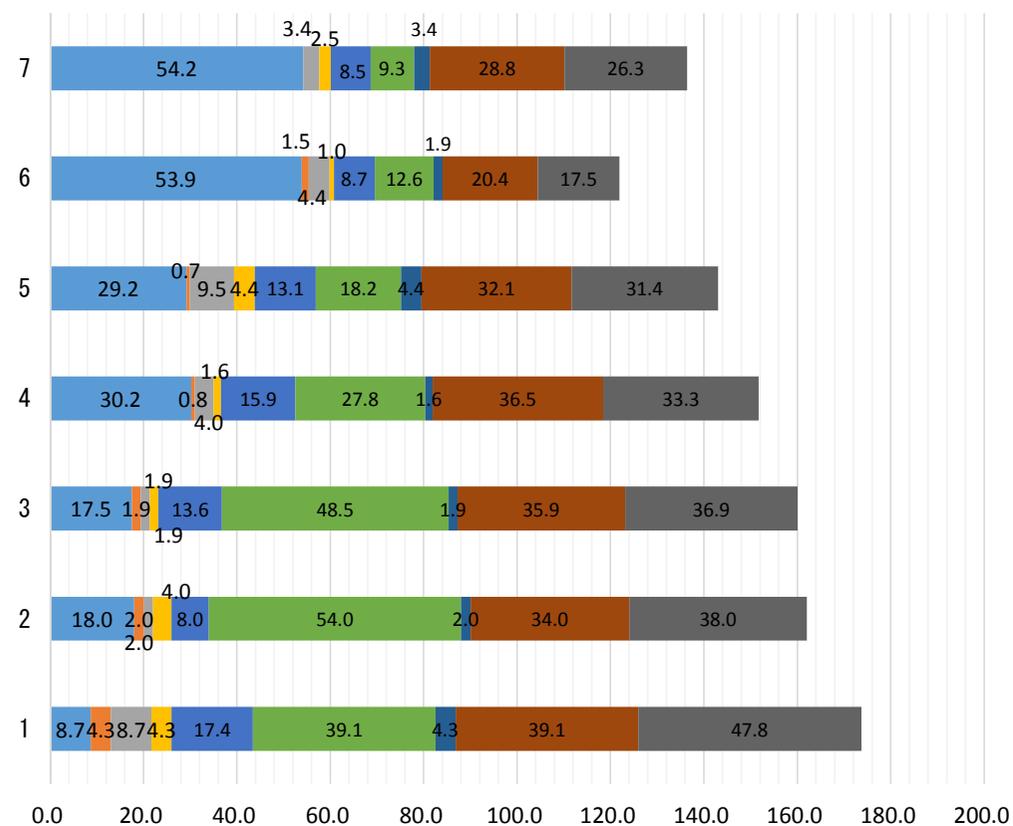
8期



■ 系列9 ■ 系列8 ■ 系列7 ■ 系列6 ■ 系列5 ■ 系列4 ■ 系列3 ■ 系列2 ■ 系列1

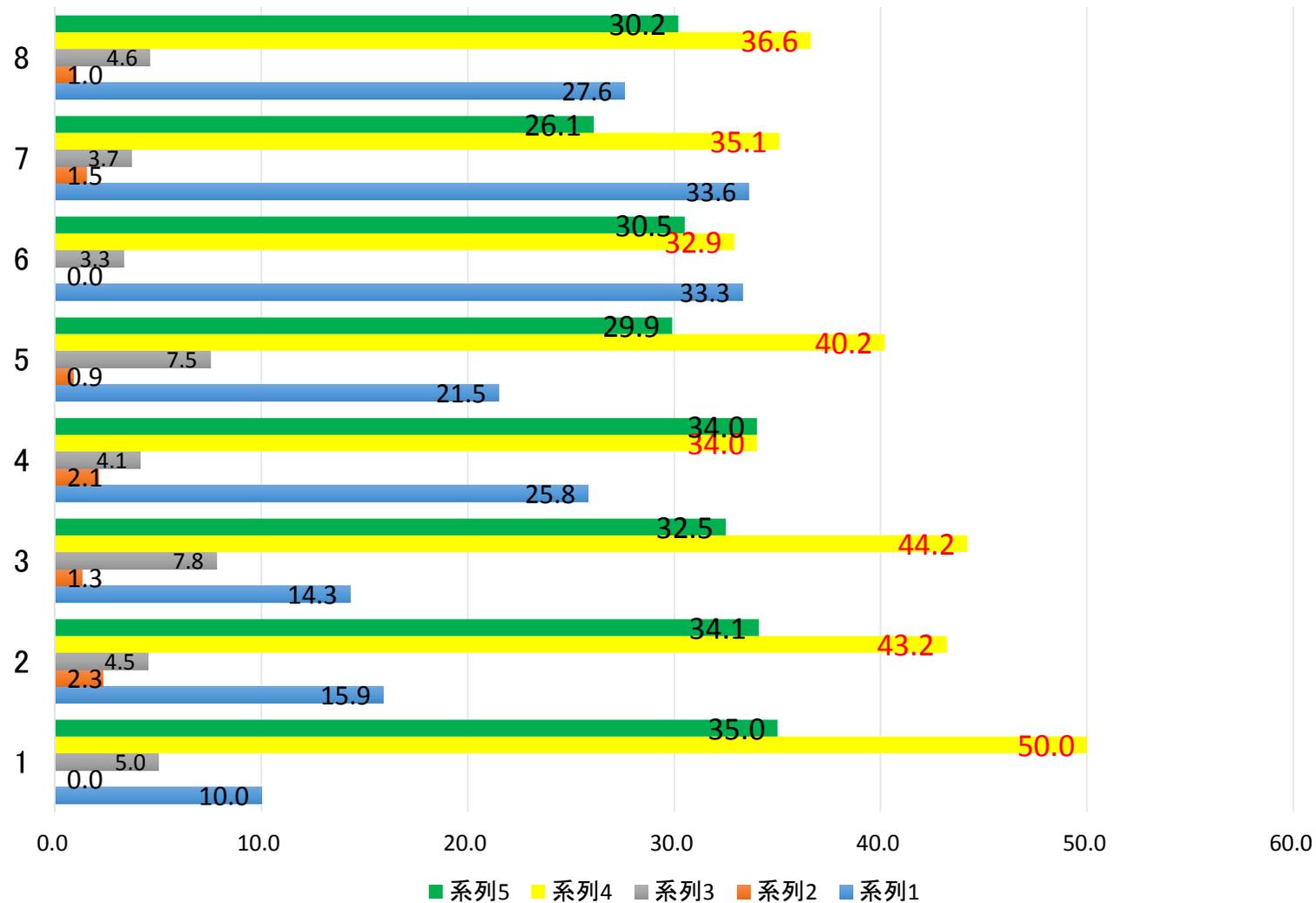
あなたの家、要介護者の自宅、親族等の家を希望する割合は、7期では69.4%、8期では61.6%。8期は無回答の割合が36.6%として最も高かった。  
 8期では、「要介護の自宅」が29.9%と最も多く、次いで「あなたの家」が29%、「特別養護老人ホーム」が24.3%となっている。  
 ※最も希望するものでは、「要介護者の自宅」が8.8%と最も多く、次いで「あなたの家」4.8%、「特養」4.6%、無回答79.4%となっている。

■ 系列1 ■ 系列2 ■ 系列3 ■ 系列4 ■ 系列5 ■ 系列6 ■ 系列7 ■ 系列8 ■ 系列9



# 利用した介護保険サービスに満足していますか。

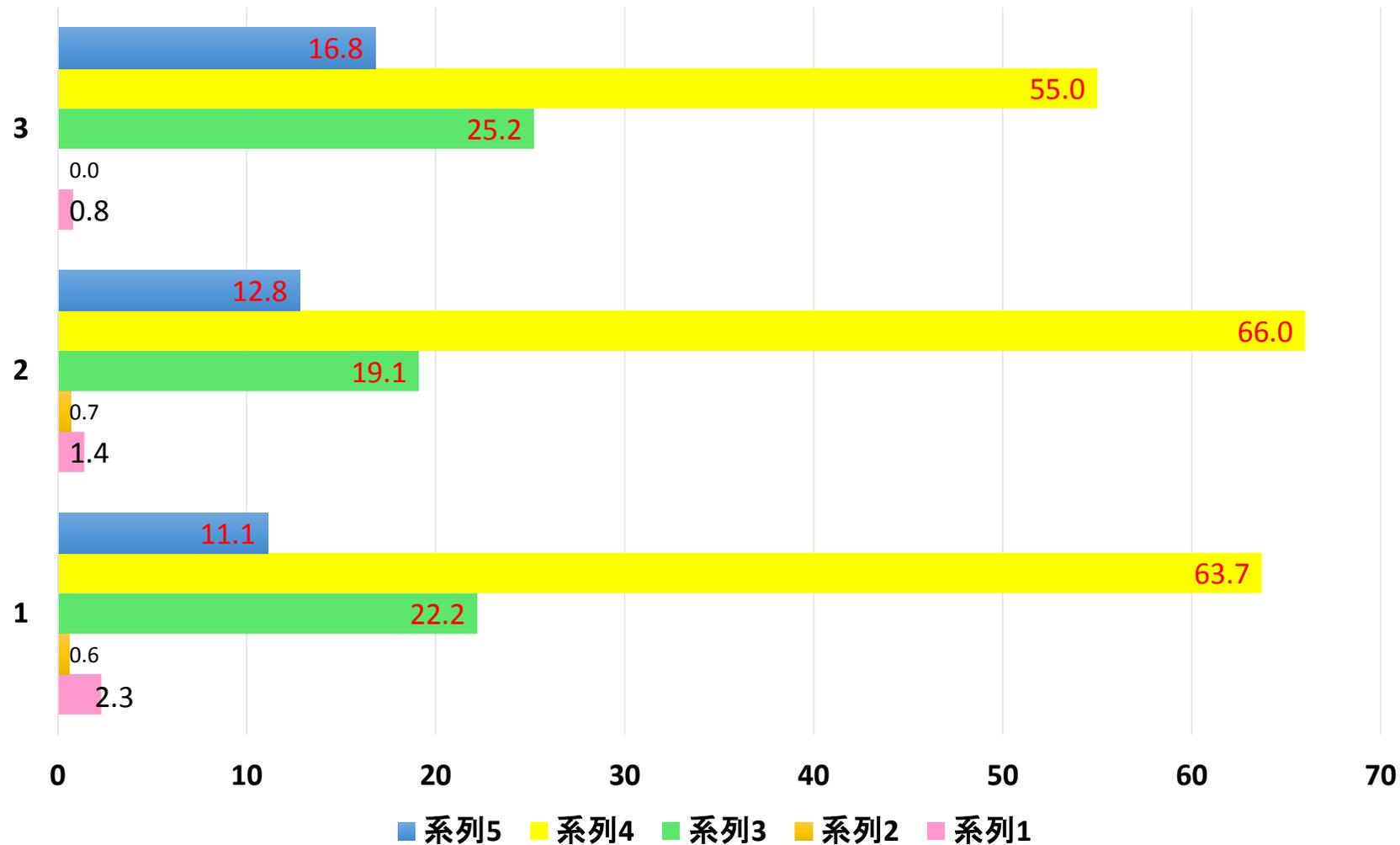
8期 要支援・要介護認定者



利用した介護保険サービスに満足しているかでは、「大変満足」「やや満足」を合わせた『満足』が66.8%となっている。

介護別では、要介護5では、『満足』と回答した割合が高く、大いに不満の回答数がゼロ。

# 医療との連携は取れていますか



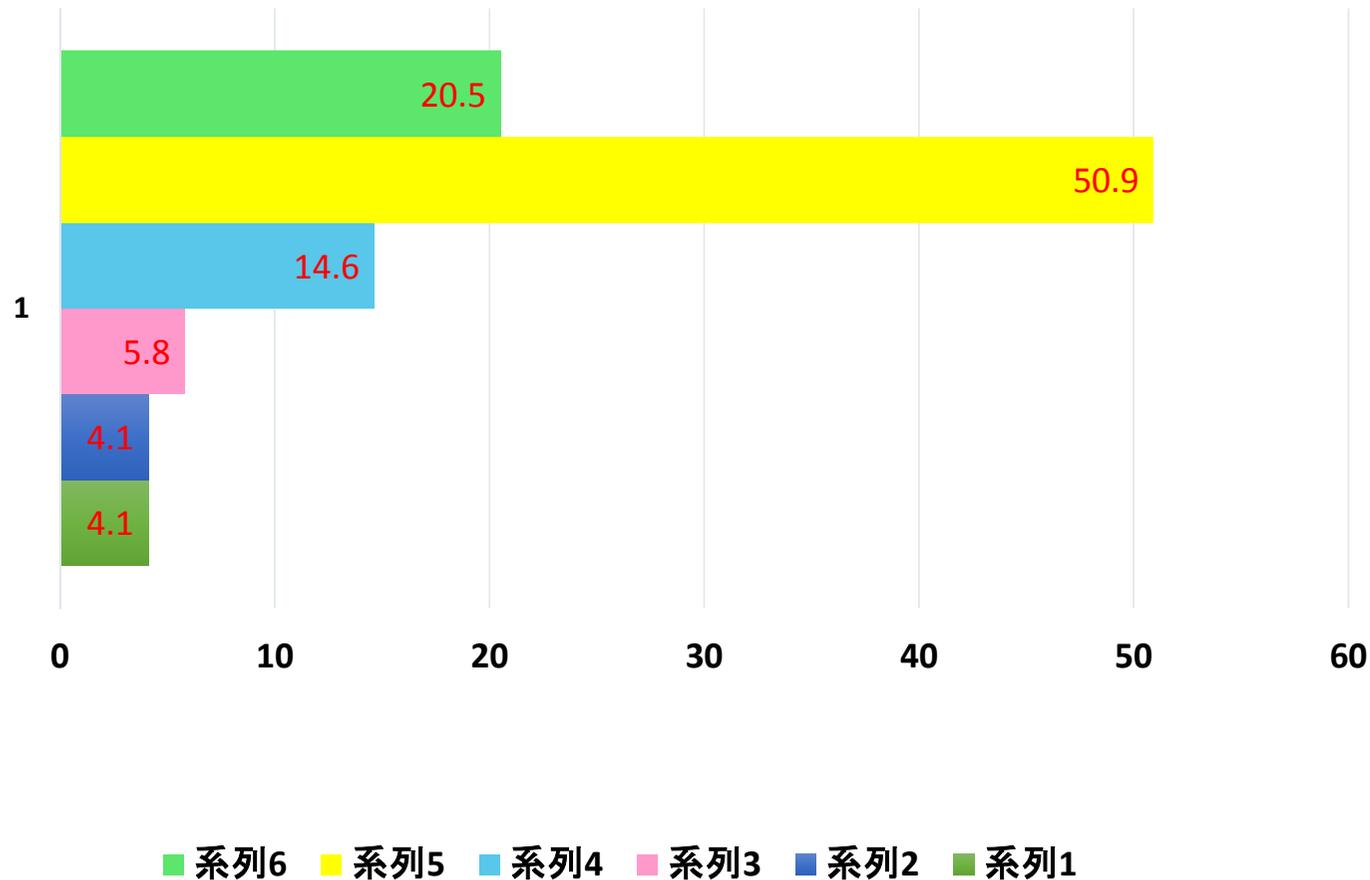
十分に連携は取れているが、調査毎に減少傾向。「まあまあ連携はとれている」も8期は7期より減少。  
7割のCMは連携は取れていると思っている。

8期 連携が取れていない理由  
①医師が忙しく日程を調整することが難しい 53.5%  
②自身の医療的知識の不足 51.2%

【どのような連携が必要】  
利用者の病気だけではなく生活をどのように送っているかの情報の共有を図りたい(自由記述)

# 日常の支援において、本人の終末期における医療や介護、生活や家族への希望等、ACPについて、本人の意向を確認していますか

8期のみCM



「いつも確認している」「時々確認している」を合わせた『確認している』は71.4%。  
「確認していない」が14.6%

8期CM/ ACPについて言葉を知っていますか(n=171)  
①知っている 67.3%  
②知らない 32.2%

# 高齢者福祉計画アンケート結果から考える 「医療と介護のありたい姿」に近づくために、これから本事業で進めること

アンケート結果	これからすること
市民の在宅医療の認知度はまだまだ半数	在宅医療介護啓発講座の地域別開催を継続実施。在宅医療介護啓発講座に協力いただける専門職を増やしていく。
ACPは「知らない」「言葉だけを知っている人」が多い。	市民にACPの周知啓発を継続実施する。医療職も福祉職も本人が大切していること、望んでいることを共有する理念や技術・経験が必要。各専門職団体や本事業の研修会等で継続してACPについて理解する場を設ける。
暮らしの場所は自宅が良いが7割	在宅療養の充実がますます重要。指標を通して、現状や地域資源等を確認する。関係団体や関係各課と共有し、協議検討
介護保険サービスの満足度は7割弱。	在宅継続に必要な体制整備と、制度を支える専門職の技術向上を事業を通して実施する。
7割のケアマネジャーは医療との連携は取れていると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CMが考える連携不足の要因は、医師とのコミュニケーション不足と自身の医療的知識の不足。連携タイム活用を医師会及びCM連絡会等に再周知。医療的知識の研修会はCM連絡会と共に協働企画、実施する。</li> <li>・ケアマネジャー以外の他専門職の連携状況と課題を調査</li> </ul>

## 協議事項

8月5日の協議会では、アンケート結果を踏まえ、本事業で必要なことについて御意見をお願いいたします。

## 参考

第8期つくば市高齢者福祉計画策定のためのアンケート調査報告書

⇒ 8月1日よりつくば市HP掲載予定

平成28年度 つくば市在宅医療・介護連携推進事業意識調査

⇒ トップページ > 子育て・福祉 > 高齢者福祉 > 地域包括支援センター > つくば市在宅医療・介護連携推進事業 > 意識調査